2015年度活動報告

はじめに

2015 年度をもって引退馬協会は設立から 6 期を終了しました。まずは、無事に 2015 年度を終了することができましたのは、みなさまのご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

2015 年度は、馬と人のふれあい事業、フォスターペアレント事業、引退馬ネット事業の3つの事業を中心に活動を進めてきましたが、ホームページや facebook などの SNS での情報発信に加え、設立当初から続けてきた写真展や、引退馬連絡会など引退馬支援に関わる各団体と連携しながら行ってきた様々な啓発活動によって、新規入会者や寄付が順調に増え続け、活動を推進する大きな力となっています。

特に、2014 年 9 月に北海道・新ひだか町で開催された「引退馬ホースサミット」をきっかけで設立した、馬主の飯塚知一氏をはじめとする「引退馬の余生を考える会」が、JRA 新潟競馬場、福島競馬場と2回の企画展を開催したことに加え、JRA の角居勝彦調教師が設立された「ホースコミュニティ」による『サンクスホースプロジェクト』が活動を開始し、これらがマスコミで大きく報じられたことから引退馬支援活動に注目が集まり、競馬サークルや乗馬関係者を巻き込んだ大きな動きをつくるきっかけになりました。

これらの流れに加わりつつ、前身の「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」から 20 年に渡る活動を経て、引退馬協会がこれからどのように引退馬に関わっていくかを考えた中で、「協会のフォスターホースはじめ、引退馬ネットのサポートホース、再就職支援プログラム卒業生、協会が関わりをもった騎馬隊退役馬、ハーモニィの冠や凍結烙印のある被災馬たちは最後まで見守ること」を活動のもっとも大切な理念であることをあらためて確認いたしました。このことから、まずは、フォスターホースが安心して穏やかな余生を送れるようにと考え、災害などの有事の場合に収入が減る、または途絶える場合に備えるための「セーフティネット」として、会の所有馬 1 頭あたり 50 万円、2015 年度終了時の所有馬 11 頭分として 550 万円を貯蓄しました。将来的には 1 頭あたり 100 万円を目指して今後も少しずつ増やしていく予定です。

こうして貯蓄ができるようになったことは、認定NPO法人の認証を受け、寄附金に対する優遇税制が認知されるようになったことで寄付がしやすくなったことや、会費の全額が寄附金として控除対象となる後援会員への関心が徐々に高まってきたことも大きく関係していると考え、定款変更を行って、今まで後援会員の月会費が 1 口 2000 円だったところを 1000 円とし、より活動に参加しやすいようにしました。

各事業に関する詳細は以下に報告いたします。

1）馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース（以下、FHと記載）たちの体験騎乗や、お手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくために行っています。

トウショウフェノマとハリマブライトの預託先である千葉県の乗馬倶楽部イグレットで、当会の前身である「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」の頃から重要なイベントとして行っている「FHと過ごす日」や、北海道・千葉・鹿児島に預託しているFHたちとの自由訪問でのふれあいの他、安全指導を含む馬との接し方・乗り方の講

習会の開催、及び、FHにゆかりのある牧場や引退競走馬たちの見学ツアーやボランティアツアーを実施しています。また、「再就職支援プログラム」では、引退競走馬の初期馴致を行い、適材適所への譲渡活動を行っています。

① 「FHと過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

② 隔月で計 6 回開催し、毎回大勢の方が参加してFH達とのふれあいを楽しまれました。2015 年 8 月には毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキューとの同時開催とし、会員同志が親睦を深められていました。体験騎乗では、2015 年度も騎乗できるFHがハリマブライトのみだったため、乗馬倶楽部イグレットの馬たちにも協力していただきました。各馬の担当スタッフさんがFHや引退馬ネットのサポートホース、再就職支援プログラムを受けている馬の馬房前で普段の馬たちの生活を紹介してくださる馬房前トークも毎回好評で、このイベントを通じて会の活動について理解を深めて入会して下さる方も増えています。

騎乗体験

馬房前トーク

毎夏恒例　バーベキュー

③ 乗り方指導・馬の接し方講習会（含む安全指導）

騎乗できるFHがハリマブライト一頭だけで、ハリマブライトはからだが小さく、乗り難しいところがあり、誰でも乗れる馬ではないため、「FHと過ごす日」を除いて、会員の騎乗は曳き馬のみでした。馬とのふれあいは会の大切な事業であると考えていることから、騎乗できるFHを千葉にと考えてきましたが、2016 年度に入って 9 月に新たなFHにコアレスピューマを迎えることができました。

④ 専門家を招いての指導

2016 年 4 月 17 日の「FHと過ごす日」に、ゼンノロブロイで「ベストターンアウト賞」を受賞された元 JRA 厩務員の川越靖幸さんを講師にお迎えしてグルーミングミニスクールを開催し、ハリマブライトをモデルにお手入れのしかたをレクチャーしていただきました。プロのお手入れに接することができ、大変好評だったため、2016 年度に入り、6 月の「FHと過ごす日」でも開催しました。

⑤ 安全に接することができる馬の調教（引退競走馬再就職支援プログラム）

再就職支援プログラムは、引退した競走馬に対し、人とおだやかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に曳かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駆歩をゆっくりと指示通りにできる基礎的な運動などを通して、おおよその馬の性格や能力を把握して、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先とのミスマッチを防ぐために大変有効な

プログラムと考え、継続して行っています。基本的には1頭につき 3～4 カ月を目安としていますが、譲渡先を探すことに時間がかかっていることから、2015 年度は 1 頭あたりの予算に余裕をもたせて実施しました。

2015 年度は前年度から引き続き、第一期生のカエラチャンに出戻り調教を行い、2016 年 8 月に譲渡先へ戻ってからも、適切な飼養ができるよう、随時アドバイスを続けています。また、プリンセスアイズとオキテの 2 頭の初期馴致を行い、プリンセスアイズは最初のトライアルから先方の事情により戻ってきましたが、次の譲渡先が決まっており、受け入れの準備ができ次第移動する予定です。オキテはプログラム参加時に決まっていた譲渡先へ 2016 年 6 月に移動しました。

プリンセスアイズの調教風景

最近ではプログラムの認知度の向上により、馬の引き取りを希望する方が増えてきましたが、中でも「ふれあい」の対象としての馬のニーズが高くなっています。競走を引退してプログラムに参加する馬は圧倒的に若い馬が多いため、なかなか期待に沿えない状況が続いています。譲渡については終生繋養を前提としていますが、今後は「貸与」に枠を広げて繋養先を探していくことも模索しています。

⑥　馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

2016 年 4 月 8 日から 10 日にかけての 2 泊 3 日で、会員6名、事務局スタッフ 2 名の計 8 名で、ホーストラスト鹿児島にて毎年恒例のボランティア＆見学ツアーを開催しました。これまでは作業ボランティアとして行ってきたツアーですが、被災馬FHを預託していることから見学を希望する声も多くなり、ホーストラスト鹿児島にご協力いただいて、前回から作業ボランティア、見学、どちらかだけでも可能とさせていただいています。参加者はほとんどがリピーターの方でしたが、初参加の方も含めて、ハーモニィチトセチャンやコッチャンとのふれあいや、エナコのお墓参りをし、繋養されている馬たちの朝夕の飼い付けやお手入れなどの作業を手伝いました。今回も、小西代表から伺うお話や懇親会などで親睦を深めたホーストラスト鹿児島のスタッフのみなさんとの会話や作業を通じて、ホーストラストの活動について理解を深めることができたと思います。

⑦　引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

引退馬繋養牧場の開設を目指される方からの相談や、空き牧場を利用した「馬のいる風景」を増やすための啓発活動などが増えてきたことを受け、2015 年度からは「馬と人のふれあい事業」として馬が安心して生活する場が増やせるよう、具体的に取り組んでいくことになりました。

千葉県では、新規にオープンしたゴルフ場・東京クラシッククラブのご協力を得て新たな馬のいる風景づくりを、また福島県の被災地では伝統ある「馬のいる風景」を守りたいと考え、準備を進めています。

なお、東京クラシッククラブでは、引退馬協会の活動に賛同し、継続して支援してくださることをホームページ上で掲げられ、2016 年 5 月 14 日のプレビショナルオープン開催時に実施したチャリティーで集まった

募金すべてを寄付してくださいました。

2）啓発事業

年 4 回（季刊）発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるためのインターネットでの情報発信や、引退競走馬の引退後の生活を紹介する写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

① 引退馬に関する各種広報活動

2015 年度も公式ホームページやFHたちの近況報告ブログを主に、facebook や twitter を通じて、情報発信を行いました。特にリアルタイムで情報発信ができる facebook は効果が大きく、会員以外の方への啓発に加え、新規の入会や寄付へと繋げることができました。

② RHA 通信・活動報告書の発行・送付（印刷版・PDF 版）

正会員（一般会員・FP会員）・後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、7 月、10 月、1 月、4 月の年 4 回、「RHA 通信」を郵送、WEB 閲覧を希望した方へはメールで配信しました。2014 年度の活動報告は 2015 年 10 月にすべての会員と大口のご寄付をいただいた支援者にお送りしました。

③ 引退馬をテーマにした企画展などのイベントの開催

冒頭でも報告いたしましたように、「引退馬の余生を考える会」が、2015 年 8 月 1 日から 9 月 6 日まで JRA 新潟競馬場で、2016 年 4 月 9 日から 24 日まで JRA 福島競馬場で、「引退馬の余生を考えよう」という企画展を開催しました。この企画展では、引退名馬たちの今を写した写真と、引退馬の支援活動をパネルで紹介し、来場者アンケートでは「引退馬の現状について初めて知った」「こういう活動があることを知らなかった」という声に加えて、「これからも全国で開催して欲しい」という声も多くいただき、大きな意義のあるイベントとなりました。

④ FH＆サポートホース写真展

競馬場などの大きな会場での写真展開催はありませんでしたが、会員のご協力によって、2015 年 9 月 19 日から 23 日には三重県・津市のイオン津南ショッピングセンターで、2016 年 4 月 27 日には埼玉県・浦和市のJR浦和駅にて、「癒しの馬写真展」や「あにまるはぁと」でご覧いただいたパネルを展示していただきました。

⑤ 引退馬協会活動記録集制作・販売

東日本大震災で被災した馬たちの支援活動を記録として残すことを目的とした被災馬記録集は、倉橋理事へ編集を依頼し、作業を続けていましたが、出版社（集英社インターナショナル）からのアドバイスもあり、「引退馬協会の記録」とし、前身のイグレット軽種馬フォスターペアレントの会からの歩みとして編纂することになりました。出版は 11 月末を予定しています。また、その過程で、沼田代表の生き方が出版社の方の目にとまり、沼田代表自身にスポットを当てた児童書（来年夏出版予定）と一般向け書籍が出ることになりました。この 2 冊は引退馬協会と直接の関係はありませんが、引退馬のことを知る人の裾野を広げるために出

版を承諾しました。

3）引退馬ネット事業

引退馬ネット事業には、引退馬協会の対外支援活動全般が含まれます。単発的な相談のほか、サポートホース団体設立など長期的なサポートを行っています。

① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについてアドバイスしています。引き取る馬のために早めに準備する方からの相談が増える一方で、準備なく引退後に慌てて相談してくる方が後を絶ちません。啓発事業と連携して引き取る方のための啓発活動を充実していく必要性を感じています。

② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

2015 年度からすべての会からサポート事務手数料を負担していただくこととなり、引退馬ネット事業に従事するスタッフを増やすことができましたが、既存団体の会員の方たちの会費の自動引落しへの移行等に思いのほか時間がかかったため、2013 年より休止していた、新規団体の立ち上げが出来ない状況が 12 月まで続き、申請のあった2団体を待たせてしまう結果となりました。「サカモトホースファミリー」は 1 月、「ツルオカオウジの会」は 4 月よりサポートを開始しました。

今は新体制も整い、会員受付業務や会費の入出金管理のほか、各会で日々発生する問題についてアドバイスや交渉業務を行っています。

また、「トウカイテイオー産駒の会」は、サポートホースのヤマニンバッスルの所有権移転と、現役のトウカイテイオー産駒の応援団体の「チームテイオー」との統合のため、サポートを終了しました。4 月にフジヤマケンザンが亡くなり、「チームケンザン友の会」が解散、「オキテ君を見守る会」についても、再就職支援プログラムに参加するまでの積立を目的に設立した団体であるため、2016 年度に入ってからですが、サポートを終了し解散しています。

2015 年度　新規サポートホース団体と異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
アンバーネックレス タケノハーモニー（永眠）	サカモトホースファミリー（1 月設立）	北海道・静内坂本牧場
ツルオカオウジ	ツルオカオウジの会（4 月設立）	北海道・イーハトーヴオーシアンファーム ⇒茨城・霞ヶ浦ライディングファームへ移動（9月）
ヤマニンバッスル	トウカイテイオー産駒の会	サポート終了（3 月）
フジヤマケンザン（永眠）	チームケンザン友の会	フジヤマケンザン死亡により解散（4 月）
オキテ	オキテ君を見守る会	再就職支援プログラム参加（6 月に譲渡が成立し解散）

③ 引退馬繋養団体が開催するふれあいイベントの協賛・後援

実施しませんでした。

④　ハッピーライフプロジェクト

このプロジェクトでは、引退した競走馬を引き取りたいと思う方のために、その馬を行方不明にしないことを目的として、馬の健康手帳につける「ハッピーライフカバー」の配布を行うものです。2015 年度も何件かお問合せをいただきましたが、実際に装着するまでには至りませんでした。運用には検討すべき課題を残している為、2016 年度にも引き続き、実効的な運用方法を具体的に定めることを課題としていきます。

4)フォスターペアレント(FP)事業

前身の「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」から継続しているこの事業は、FHが終生穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FPと記載)制度によって、FHたちを安定していく繋養する、引退馬協会の根幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。

2015 年 10 月には、トウショウ牧場の閉鎖に伴い、マザートウショウとトウショウオリオンの 2 頭を新たなFHとして受け入れ、マザートウショウは北海道・浦河の渡辺牧場へ、トウショウオリオンは同・三石の本桐牧場へ 10 月 26 日に移動しました。どちらもそれぞれの牧場さんが心をこめて世話をしてくださるおかげで、すっかり新しい環境にも慣れて元気に過ごしています。

2頭の受入により、FHは 10 頭となりました。北海道では、最高齢のウラカワミユキが 35 歳となり、最近では目のトラブルを抱えているものの、手厚い看護を受け、放牧仲間のトウショウヒューマ(春風)を頼りつつ、日々穏やかに過ごしています。息子のナイスネイチャは 28 歳。セントミサイル(26 歳)やメテオシャワーとふざけ合いながら元気に走り回っています。エイシンバーリンも今年で 24 歳になりました。持病のメラノーマを漢方薬で抑えつつ、マイペースに毎日を送っています。千葉では、21 歳になったハリマブライトが 2015 年度もFHと過ごす日では会員さん達の騎乗やお手入れなどのふれあいで大活躍し、食欲も旺盛で、疝痛も起こさなくなりました。どのFHたちも高齢化が進んでいることもあり、何かあれば早めに診察を受け、適切な処置を取ってもらうようにしています。10 頭揃って 2016 年度を迎えましたが、残念ながら、トウショウフェノマ(24 歳)は、腰の治療のために電気針を打ったり、濃厚飼料を与えた効果もあり、体調も安定していたのですが、2016 年 8 月 19 日、洗い場で倒れ、心臓麻痺で急逝しました。これまでフェノマを支えてくださったみなさまには、あらためまして心より御礼申し上げます。

（左）　マザートウショウ
（中）　トウショウオリオン
（右）　トウショウフェノマ

FHに関わる情報発信として、FP会員には、RHA 通信を発行した 4 月、7 月、10 月、1 月を除く計 8 回、FHリポートを、郵送またはPDF版で発行しました。この他、会のホームページ内の近況報告ブログと facebook, twitter を連動させ、随時、各FHの近況報告を発信しました。

「2016 年FHカレンダー」には新FHのマザートウショウとトウショウオリオンも掲載して 1100 部制作し、フォスターペアレント会員に贈呈したほか、2015 年 10 月から昨年と同じく一部 800 円で販売しました。ヤマト運輸のメール便が廃止となりDM便になってからは、送料の負担が倍額になってしまったため、2016 年度からは 1 件の注文につき 100 円の送料負担をお願いすることになりました。

また、2014 年 8 月 6 日に亡くなったFHのエリモシックの墓碑を建てて欲しいというFP会員からのお声をいただいておりましたが、2015 年 6 月、本桐牧場様のご厚意とご協力により、最後の日々を過ごした放牧地が見える敷地内に建立させていただきました。墓碑建立にあたっては、エリモシックのFPさんからのご寄付を充てさせていただきました。

被災馬FHの預託にかかる経費は、これまで被災馬支援基金から支出していましたが、基金の残高がなくなったため、2015 年度からはフォスターペアレント事業から支出することになりました。今年の春から夏にかけて、九州地方では大雨が続いていましたが、コッチャンもハーモニィチトセチャンもすっかりホーストラスト鹿児島の環境に慣れ、健康上の問題もなく、たくましく過ごしています。

5）協賛及び後援事業

2015 年度は、実施しませんでした。

上記 5 事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

2015 年度もスタッフによる見守り活動や被災馬募金活動を継続し、必要に応じて支援を行いました。また、2016 年 4 月に起きた熊本地震で被災した引退馬牧場へ物資の緊急支援も行いました。飼料代は請求日の関係で 2016 年度に入ってからの支出となりました。

② 「第三の馬生」支援

日高スタリオンステーションが閉鎖され、行先を探していた外国産種牡馬スキャン(27 歳)を、2015 年 12 月に緊急措置としてみなさまからのご支援によって北海道・新ひだかの荒木牧場へ預託しました。その後、年齢的なことや継続的な支援に対するハードルの高さなどを考慮して、引き続き荒木牧場へ預託することが最良と判断、正式に会の所有馬とし、「スキャンプロジェクト」としてみなさまからのお寄せいただいたご寄付によって繋養していくことになりました。

スキャン

また、「あの馬たちの近況報告写真展」で警視庁騎馬隊退役馬のテンジンショウグンを取り上げて以来、退役馬の引き受け先探しの協力を依頼されている警視庁騎馬隊から、響輝号を埼玉県・越生町の小森恵子さんへ、翔馬号を愛知県常滑市の乗馬クラブクリスへと橋渡ししまし

た。

③　引退馬連絡会

連絡会全体での具体的な活動は行いませんでしたが、「引退馬の余生を考える会」で活動を紹介するパネルを展示し、多くの方に引退馬を支援する活動を行う団体や人を紹介しました。この流れを受け、2016 年 2 月に参加団体へ総会開催についてのアンケート調査を行い、結果に基づき、2016 年度には総会開催に向けて準備を進める予定です。

6）その他の事業

法人税の負担に見合った収益が見込めないとして、2015 年度も営利事業は実施しませんでした。

※引退馬協会は千葉（本部）と北海道（北海道事務所）の二つの都道府県に事業所があるため、千葉県と香取市、北海道と長沼町の 4 か所で法人税（均等割り）の支払いが発生します。

2016 年度に向けて

2016 年度は、引退馬への関心が以前より集まるようになってきた今の流れを止めないよう、引き続き、馬と人のふれあい事業、フォスターペアレント事業、引退馬ネット事業の3つの事業を根幹事業として活動を推進し、啓発活動についても積極的に行っていきます。

また、事務局の作業を効率化するために、新たな会員データベースシステムを構築するとともに、情報管理にあたってのセキュリティ対策にも力を入れながら、運営基盤の強化を図っていきます。

非営利事業について、まず、馬と人のふれあい事業では、乗馬倶楽部イグレットで開催している「フォスターホースと過ごす日」以外に、協会が他の施設と馬を借りる形でイベントを開催することで、引退馬と触れ合う機会を増やし、啓発活動を波及させていくことを考えています。

隔年で開催している北海道ツアーは、例年 10 月中旬から下旬に実施していましたが、寒くなると感染のリスクが高まる馬鼻肺炎防止など防疫の観点から、「引退馬協会は見学に関してお手本となるべき立場」であると考え、これまでより時期を早めて 2016 年 9 月 9 日から 2 泊 3 日で実施しました。

*馬鼻肺炎は、妊娠した牝馬が感染すると流産や死産を引き起こし、仔馬が生まれても死亡してしまうため、「流産病」とも言われています。

再就職支援プログラムは、2016 年も 3 頭分の予算を取っていますが、申込みが増えていることや譲渡先探しのための待機期間が長くなっていることを鑑み、乗馬倶楽部イグレット以外にも信頼できる施設があれば委託していくことを考えています。

啓発事業では、現在、会員向け主体となっているホームページをリニューアルして、より広い対象に向けて情報発信を行い、新規会員の獲得やご寄付による収入を増やすことを目的として準備を進めています。また、引退馬の引き取りに関する心構えや準備などに加えて、牧場見学時のマナーについても、引退馬に関わる団体として積極的に啓発活動を行なっていきます。

引退馬ネット事業では、人員体制が整ったので、新規のサポート団体立ち上げについては、団体の設立・承

認のプロセスを見直し、効率化させていくことを目指します。

フォスターホース事業では、いつでもフォスターホースを受け入れることができるように体制を整え、2016 年度に入って、キョウエイボーガン、おにくん（被災馬FH）、コアレスピューマの 3 頭をFHとして受け入れました。2016 年度は3頭を含めたFHたちの健康管理とQOL（クオリティオブライフ）の維持に留意しつつ、セーフティネットの充実を図ります。

被災馬支援事業では、引き続き被災馬たちの見守りをし、災害が発生した場合の体制の整備も進めていきます。

その他の非営利事業のうち、これまで「第三の馬生支援」として行ってきた活動は、2016 年度から、競走引退後の第二の馬生も含め、引退馬協会の活動の基本姿勢と謳っている「引退馬を最後まで見守っていく」という視点で「次の馬生」という名称で継続します。

引退馬に関する問い合わせは年々増えてきており、再就職支援プログラムへ入れたいという依頼が増えると同時に、引退馬を引き取りたいという依頼も増えてきています。これらをいかに適材適所へと繋ぎ合わせ、一頭でも多くの馬を安心して過ごせる「次の馬生」を送ることができるかを第一に考えながら行動していくことが、引退馬協会の使命であることをあらためて認識して活動していきます。

また、2015 年度から、沼田代表が、有志の方々と協同で横浜市・根岸競馬場跡の保存活動を行っており、今後も引き続き、「NPO 法人歴史的建造物とまちづくりの会」とともに、西洋競馬発祥の地である根岸を引退馬に関する情報発信地にすることを目指して活動していきます。

Darley 社を中心に、「国際競馬統括機関連盟(IFHA)」のバックアップによって、引退馬に関する国際的な団体が設立され、今後はJRAも引退馬支援活動に積極的に関わっていくことになっていくであろうと思われる2016年。引退馬協会も関連する団体と連携しつつ、活動を持続可能なものとするよう、業務の効率化を図りながらしっかりとした体制づくりにも力を入れ、多くの方々からのご理解とご賛同を得られるよう、これからも邁進していきたいと考えていますので、引き続きご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。